

# 平成 30 年度 租税教育活動プレゼンテーション一覧

\* 掲載順番は局連順です。

## <最優秀賞>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
金 沢	○金沢（石川） ○小学6年生 ○11校29クラス 958名	<p><b>【「税の使いみち総選挙2018」～繋がる租税活動】</b></p> <p>租税教室で宿題として持ち帰った「税の使いみちシート」を家庭で親と完成させ、一次選考を通過した小学校10校から選出された代表者1名がプレゼンを実施。来場者全員が投票を行い、グランプリを決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの一方通行型の租税教室でなく、多くの大人たちにも繋がる租税教室を一貫したテーマとして開催。</li> <li>・授業で税の使いみちについて皆で考える時間を設け、家庭で親に自分の考えを伝え、家族と一緒に考えることで多くの大人たちとも繋がる事業となった。</li> </ul>

## <優 秀 賞>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
札 幌	○札幌中（北海道） ○小・中・高校生 親 ○延べ2,000名	<p><b>【租税教育の世代間伝播 ～親から子へ、高校生から小学生・中学生へ～】</b></p> <p>「従来の講義型の租税教育だけで本当に効果があるのか」という疑問から、体験型の租税教育を模索。親や高校生も教育対象とし、更にその親や高校生が小中学生に租税教育を行うという世代を跨いだ取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近に税金が使われている動物園と地下歩行空間で、税金にちなんだスタンプラリーや税の使われ方について学べるクイズショーを実施。高校生もプレゼンターとしてipadを駆使して活躍。楽しく印象に残ることを意識。</li> </ul>
熊 本	○阿蘇（熊本） ○小学生 ○20名	<p><b>【租税キャンプ IN 古代の里キャンプ場】</b></p> <p>子供たちに、キャンプ場（仮想子供の国）で自然と触れ合いながら、生活の中の税金の入り口から出口までを体験・理解してもらう内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動中のバス内では災害復旧を含む税金の使われ方を学習し、車窓からは税金で作られた施設や震災復旧現場を見学。</li> <li>・キャンプ場では通貨「お菓子」が獲得できる税金クイズ実施後、確定申告を行って納税を体験。生活の中で税金などのように役立っているかを体系的に学習。</li> </ul>

<奨励賞>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	○町田（東京） ○小学低学年～ 高学年 ○出前型 163名 出店型 220名 （イベント型） 授業型 4クラス 110名	<p><b>【まちだスタイル・「新・かねしばい」 出前型・イベント型・授業型】</b></p> <p>5年前のプレゼン「かねしばい」の進化形。            税のある日常生活・税金を納める立場・税の無い暮らし            を3つのシチュエーションで伝える仕組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前型：団体向け（子どもセンターなど）。</li> <li>・イベント型：地域イベント向け。</li> <li>・授業型：小学校の社会科の授業</li> </ul>
東 京	○山梨（山梨） ○小学生高学年 ○500名	<p><b>【租税プロジェクトシステム】</b></p> <p>法人会が、子供達、学校、地域と連携し、無駄なく効率            よく且つ継続的に租税教育活動を行えるよう一連の事業を            システムティックにマニュアル化する取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長との連携、校長会での租税教室案内。</li> <li>・講師育成のための勉強会（青年部会・税務大学校）。</li> <li>・校内・外での租税教室（ブドウ農家との連携により地            域活性化にも貢献）。</li> </ul>
関東 信越	○川口（埼玉） ○小学6年生 中学3年生 ○小学校16校 中学校3校 計19校2,114名	<p><b>【小中学校租税教室】</b></p> <p>租税教育推進プロジェクトチームを編成し、教材、授業            スキルの研究・自主制作を行い、授業のみならず、あらゆる            場面で催事を企画・展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師資格認定制度で講師の動機づけを行い、人数を確            保。スキルを標準化し、増加する開催校にも対応。</li> <li>・中学校では「教えるから考える」へ新たな取組み。</li> <li>・地域の祭り、支部・部会行事でも税とのコラボを実施。</li> </ul>
仙 台	○米沢（山形） ○小学3年生から 一般 ○小学生179名 中高生28名 一般66名	<p><b>【ZEIKINクエスト】</b></p> <p>市主催の集客力のある学習イベントにブースを出展。仮            想「ZEIKIN国」を冒険して税の大切さと使い道、使            い方を学ぶイベントを開催。租税教室の実施率向上にも寄            与。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易租税教室を実施し、税金について学んだ後、冒険            に出発。チェックポイントでのクイズをクリアし、ゴ            ールでは税金の使い道について優先順位を自分で考え            てもらおう男女別のアンケートを実施。</li> </ul>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
名古屋	○飛騨(岐阜) ○小学6年生 ○1クラス34名	<p><b>【身近な租税教室】</b></p> <p>「地域の特性を生かしたオリジナルな租税教室」の実施を検討し、学校（関係者）とも連携を図りながら身近な公共施設での出張租税教室を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 築143年の「飛騨高山まちの博物館」で、建物の由来から税金の成り立ち、高山祭など伝統文化への税金の使われ方を学ぶ。</li> <li>・ 学校への帰路では、班ごとに分かれ、普段生活している歴史ある街並みを守る為の工夫や税金の使われ方を新たな発見とともに知ること、地域と税を身近に感じてもらう。</li> </ul>
広島	○宇部(山口) ○高校生 ○39名	<p><b>【書道パフォーマンス&amp;吹奏楽とのコラボ】</b></p> <p>高校の吹奏楽部の演奏、ダンス部の踊り、書道経験者による税に関する言葉の揮毫パフォーマンスをコラボさせ、より多くの市民に税と税を考える週間の理解を深めてもらう取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税を考える週間に合わせ、日曜日のショッピングセンターのイベントスペースにおいて、大勢の観客の前で高校生が演奏と踊りを披露し、書道経験者が4m×3mの紙に税に関する言葉を揮毫するパフォーマンスを実施。</li> </ul>
高松	○宇摩(愛媛) ○小・中・高校生 ○小学生68名 中高生45名	<p><b>【こどもタウン】</b></p> <p>中高生が主体となって企画・運営をすることで主催者意識・社会への参画意識を養い、社会の仕組みを体験的に楽しく学んでもらう過程で「租税の大切さ」に気づいてもらう取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学生の為の仮想の町「こどもタウン」で選挙・政治・納税といった社会の仕組みを学び、地域の課題解決を主体的に担う力を育む教育。</li> <li>・ プラスαとして租税教育とキャリア教育を融合させ、アクティブラーニングを取り入れた授業にもチャレンジ。</li> </ul>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
福 岡	○諫早大村（長崎） ○小学6年生および 保護者 ○合計 210 名	<p><b>【税ストリートの大冒険】</b></p> <p>小学校が休校となる平日に、保護者同伴で税務署をはじめとした公共施設や民間企業を見学し、税金の使われ方について親子で体験しながら楽しく学ぶ内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一本の道路沿いに様々な施設が集中して存在していて、一挙に見学がしやすく、記憶にも残りやすい。</li> <li>・家庭で税について話し合う材料を提供し、親（現役）世代はもとより、子供（将来）世代にも正しい納税を行う素地を養ってもらう事業。</li> </ul>
沖 縄	○沖縄中部（沖縄） ○小学6年生 ○59校 5,330名	<p><b>【ゆいまーるで租税教室】</b></p> <p>税務署や市町村役場の方と協力し、情報を共有し合いながら子供たちに税金の仕組みについて理解を深めてもらう内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の規模（100名以上・以下）によって内容を変え、記憶に残る租税教室を意識して実施。</li> <li>・参観日に合わせ保護者も参加する親子税金教室も開催。</li> <li>・参加者の理解度や考え方を調査するアンケートを5,330名全員から回収。</li> </ul>